

新年度が始まりました。置賜で迎えた6年目の春です。先日、ラジオのリポートで吉島地区に行く機会がありました。実は、川西町内には仕事で何度も来ているのですが。。

で、吉島の話です。協力隊1年目は吉島担当だったので、センターの方々はもちろん知っているのですが、学童に行ったら、先生はもちろん、児童まで知っているではないですか!!しかも、かなりデカイ!!3年間見ないうちに子どもというのは、あんなに成長するんですね～。さらに、僕のことを覚えていてくれるなんて、何やらうれしい出来事でした。

その昔、協力隊をしていた頃、「都会と田舎は何が違うのか?」と、よく考えていました。「そりゃー、人の数も、店の数も、交通も違うでしょ?」と思われるかもしれませんが。確かにそうなんです。。結局のところ、人口規模で全て決まってしまうのかな!?人が多いということは、それだけ住みやすく、需要があり、発展しているということなのか!?そう考えると何だか寂しいものですね。

地域には伝統や風習があり、人が築いてきた文化があります。その証拠が方言であり、食生活であり、ほとんど生活に根付いているものばかりです。ということは、所変われば生活が変わるというわけです。都会には都会らしい暮らし。田舎には田舎らしい暮らし。がある。。そう!あるはずなんです!そういうものを求めて、よく考え事をしていたのでしょうか。都会と田舎は何が違うんだろ!?生活するうえで、何が違うんだろ!?

でも最近、気づいてしまったのです。それは、ここは地元ではないという感覚が、自分の生活を客観視してるのです。つまり、生まれてから今までの時間がここにはない、全ては自分のルーツにはないこと、そういう感覚がいつまでも旅人気分な訳です。

人というのは生まれる場所、その他もろもろ選べませんよね?日本人かアメリカ人か、東京生まれかシアトル生まれか。例えば東京生まれの日本人は、自分にはそういうルーツがあるということからはじまるわけです。その人が、アメリカに移住したとしましょう。そして、「ここには自分のルーツがある」と言ったら、何か違和感ありますよね。それと同じで、東京の都会育ちの人間が、「自分は都会があわない!田舎に移住しよう!」としたところで、その人は田舎の暮らしの何を知っているのでしょうか?何故、知らないことが自分にむいていると思えるのでしょうか?極論を言ってしまうと、環境に適応することが苦手なんじゃないかなと思うわけです。

適応性の高い人は都会でも田舎でも、自分の生活を築けるわけですが、そうでない人はどこへ行っても不安でしかないでしょう。でも、その不安を味わうことは決して無駄ではないと思います。

「かわいい子には旅をさせよ」といいますが、その通りだと思います。いつまでも自分の手の届くところに置いていたら、世間が狭くなります。困っていたら助けてくれる。失敗することも少なくなる。それは自分の知っている範囲で行動しているからそうなのです。けれど、社会に出るとというのは、今まで当たり前だったことが、そうではなくなったり、努力しても報われなかったり、失敗しても助けてくれなかったり、そういうことが普通なわけです。

誰だって侮辱されたり上手くいかないことがあれば、自尊心が傷ついていい思いはしません。その防衛本能として社会や他人のせいにしがちです。けれど、自分の能力が高ければ、必ず見ていて評価してくれる人はいるものです。そこは素直に自分の能力を高めるべきだと思います。その環境が整っているのが、やはり「旅」。つまり、移住です。

環境が変わり、価値観が変わり、それでも自分が信じて疑わない価値観があるならば、ひたすら自分の能力をあげて、認めてもらうしかありません。アメリカ人と日本人、どちらが英語が上手いか?となれば、アメリカ人だと誰もが思うのに、実は、日本人の英語、なかなかイケるぞ!と思ってもらうには、能力を上げるしかないのです。しかし、それはいつまでたってもネイティブではない、つまり、地元ではなくルーツがありません。「旅の人」というわけです。

新年度の4月は色々なことがあると思います。けれど、それが普通で、人によって、時間によって様変わりするものです。その土地に根付いている文化、地域性と同じくらい強固な概念も、実は時間とともに変わり、そうして築かれてきたものなのかもしれませんね。